

わたしたち多賀城市社協の “活動”をご紹介します!!



基本目標 1

笑顔で支え合える
地域づくり



ひとり暮らし高齢者と園児の会食交流会
をしています

基本目標 2

いきいきと地域を
担う人づくり



年代など問わず幅広い人材(財)を
育みます

基本目標 3

地域により添い支える
仕組みづくり



地域の支え合いは「お宝」です
(第二層協議体)

基本目標 4

地域を支える
基盤整備



地域に出向き顔の見える活動や
支援を行います

コロナ禍となりお弁当を
民生委員と一緒に届けています



老人クラブなど福祉団体へ
側面的支援をしています



『もったいないからありがとうへ』
フードドライブ事業



時代に即した災害ボランティアセンター
運営を目指します



おtagaiさま ふ・く・しプラン

概要版

第1期 多賀城市地域福祉活動計画

(令和3年度～令和7年度)



(策定の目的)

地域を取り巻く様々な課題は、公的な取り組みだけでは対応することが困難なこともあり、改めて身近な地域での支え合いや担い手の育成などの必要性が叫ばれています。

そのため、地域住民や各種団体、事業者等が相互に連携し助け合い、誰もが身近な地域で、いきいきと安心して暮らせるまちづくりを目指すため、多賀城市が策定した「第4期地域福祉計画」と連携して「地域福祉活動計画」を策定しました。計画期間は令和3年度から令和7年度までの5年間です。

(計画の推進)

この計画は、「ともに 支え合い みんなが安心して暮らす まちづくり」を基本理念とした計画です。

未だコロナ禍の状況であり、これまでのような対面・集合を基本とした活動や取り組みが制限されたり自粛が求められている状況が続いています。

この計画における事業や取り組みも影響を受けている状況ですが、その中でもやり方を変えて出来ること、今だから出来ることを取り入れながら計画を推進していきます。



現在の現状や課題

基本理念

基本目標

現状 1

地域コミュニティのつながりが希薄化している



課題：地域社会のつながりが希薄しており、地域でお互いに支えあう取り組みがづらい状況になっています。地域活動やボランティア活動の機会を通じて、地域との関わりを持つことが求められています。

現状 2

ボランティアの意義の醸成が不足しており、ボランティアの裾野を広げる必要がある



課題：地域共生社会の実現には、ボランティアやNPO等の連携や支援、地域福祉活動の人材発掘やサポートが求められています。

現状 3

問題を解決するため、地域の住民や福祉関係機関との連携が構築されていない



注釈：8050問題とは、「80歳代」の親が「50歳代」の子供の生活を支えている問題です。介護や生活困窮などの複合的な問題により親子が共倒れや社会から孤立するケースが増加している社会問題です。

課題：ひとつの機関だけで解決が難しい8050問題などの複合的な課題や、多様化している地域課題に取り組むには住民や福祉機関と一緒に考えていくことが求められています。

現状 4

地域課題、生活課題が多様化しており、それらの課題に取り組むための基盤が整っていない



課題：地域住民の生活課題は、社会的孤立や生活困窮など、複雑化・多様化しています。また法律の改正に対応しながら、今後の福祉が目指す方向性に留意して中長期的な視点を持った業務体制の整備が求められています。

ともに 支え合い
みんなが安心して暮らす
まちづくり

基本目標 1

笑顔で支え合える地域づくり

《基本計画》

- ① 地域コミュニティづくりの展開 【地域での住民交流活動の活性化・側面支援】
主な取り組み：『ふれあいまちづくり事業』・『はじめまして、こんにちは、おばんです』事業の立ち上げ
- ② 地域福祉の理解や機会づくりの推進 【身近な支え合い・助け合いの活動の必要性】
主な取り組み：『ひとり暮らし老人給食サービス事業』
- ③ 広報活動の充実 【参加しやすくなるための情報発信】
主な取り組み：『社協だより』・『ホームページ等』での情報発信

目指す姿：地域で住民同士の信頼が醸成され、笑顔でお互いに支え合える地域を目指します。

基本目標 2

いきいきと地域を担う人づくり

《基本計画》

- ① ボランティアの意義・役割についての理解促進 【意義・役割の理解を促し、ボランティア活動の活性化】
主な取り組み：『ボランティア活動（市民の自発的な活動）の理解と活性化』・『福祉学習の推進』
- ② ボランティアやNPO等の関係団体との連携及び支援 【各種団体・企業等も含めた連携の強化】
主な取り組み：『多賀城市民活動サポートセンターとの連携の強化』
『多賀子ども LINE 食堂連絡会への参画』
- ③ 地域福祉活動の人材発掘及びサポート 【福祉団体が活動しやすい環境づくり 交流・情報交換会】
主な取り組み：『民生委員・児童委員活動活性化』・『社会福祉団体間の交流及び情報交換会の実施』

目指す姿：一人ひとりがお互いを尊重して多様性を認め合い、自分の力をいきいきと地域に活かし支え合う人づくりを目指します。

基本目標 3

地域により添い支える仕組みづくり

《基本計画》

- ① 総合相談支援・情報提供活動の強化 【様々な相談を受け止めることができる体制の整備】
主な取り組み：『総合相談支援の強化及び自立相談支援窓口との連携・情報提供活動の強化』
- ② 住民と社会福祉協議会のネットワークづくり 【人知れず困難を抱えている住民を把握しやすい関係づくり】
主な取り組み：『地域ニーズ把握のための地域座談会の開催』・『様々な集い等への参加』
- ③ 福祉関係機関との連携及び活動支援 【支援関係機関との連絡調整機能】
主な取り組み：『行政や市内社会福祉法人との連携に伴う連絡会議の検討』

目指す姿：地域で活動する各団体や機関が連携することで、誰もが必要に応じたサービスや資源に繋がりを一人ひとりが住み慣れた地域で、安心・安全で自立した生活ができる地域を目指します。

基本目標 4

地域を支える基盤整備

《基本計画》

- ① コミュニティソーシャルワーク（CSW）機能の強化【住民支援と地域づくり支援が出来る職員の人材育成】
- ② 事業推進体制の整備
- ③ 被災者支援を見据えた災害ボランティアセンター（(仮称)災害ソーシャルワークセンター）の体制強化
- ④ 地域福祉活動計画の進捗管理
- ⑤ 経営・財政基盤の強化

目指す姿：ともに地域を支えていくため、透明性のある健全な法人運営に努めます。また多様で複合的な問題や課題に対応していくためにも必要な人材と財源の確保並びに組織改善に努め、安定した運営基盤と円滑な事業運営を目指します。

市民一人ひとりが、自らが暮らす地域に積極的に関わり、年齢や性別、障害の有無、社会的・経済的な地位などに関係なく地域社会に包摂され、お互いが個人として尊重しあい、生きがいや充実感を持ちながら、その人らしい生活ができるまちを目指して取り組んでいくことを表しています。
(第4期多賀城市地域福祉計画より抜粋)